

会 議 要 旨

会議名称	令和6年度 川越市産業振興審議会（第1回）
開催日時	令和6年7月17日（水） 午前10時00分 開会 ・ 午前11時30分 閉会
開催場所	やまぶき会館 A会議室
議長（会長） 氏名	会 長 新津 重幸
出席者（委員） 氏名	副会長 小谷野 和博 委 員 久米 勉 委 員 大原 健二 委 員 竹澤 穰治 委 員 榎並 和良 委 員 森田 成也 委 員 新井 康夫 委 員 松山 潤 委 員 岩澤 嗣夫 委 員 村川 はつ枝 委 員 斉藤 豊 12人
欠席者（委員） 氏名	委 員 川目 慎介 委 員 上田 俊也 委 員 山中 亨 3人
事務局職員 職名・氏名	産業観光部長 岸野 泰之 副部長兼産業振興課長 飯野 英一 産業振興課 副課長 倉本 隆志 企業立地推進室長 町田 純一 副主幹 原島 高志 副主幹 五味 弘企 主 査 奥村 理絵
傍聴人（人数）	なし
会議次第	1 開 会 2 議 題 (1) 会長及び副会長の選任について (2) 川越市産業振興ビジョンの進捗状況について 3 そ の 他 4 閉 会
配布資料	○川越市産業振興審議会資料（スライド） ○数値目標の進捗状況【公表用】 ○産業振興ビジョン推進事業進捗状況 ※すべての資料について事前送付

議 事 の 経 過

議事は、会議次第に沿って進行された。

討議の概要は、以下のとおり。

○ 議 題

(1) 会長及び副会長の選任について

事務局から会長及び副会長の選任方法について説明。

[発言内容]

(委 員) 会長に新津委員、副会長に小谷野委員を推薦したい。

(全 員) 異議なし。

[結 論]

・会長に新津委員、副会長に小谷野委員を選任する。

(2) 川越市産業振興ビジョンの進捗状況について

事務局から資料に基づいて説明を行い、出席者による討議が行われた。

[発言内容]

(会 長) 事業の進捗状況等については、事務局から説明があったとおり。

就労状況としては、人手不足が課題である。中小企業については、発展の形態が個々に違い、大企業のように大幅に革新できない。今の環境のままで将来どうなるか考えなければならない。なおかつ高齢化が進展していることもあり、パートやアルバイトなど、非正規労働者等の確保が難しい。

産業分野は環境の変化が激しい。これに伴って課題もさまざまある。それぞれの立場なども踏まえつつ、ご意見を賜りたい。質問もあれば併せてお願いしたい。

(委 員) 創業支援事業について、創業する業種の傾向はあるのか。

また、できればIT など新しい産業分野、伸びそうな創業ならば、将来につながる。むしろそういう分野をバックアップしてみたらどうかと考える。

(委 員) 肌感覚だが、コロナ前は飲食店を創業したい方が多かったように感じる。創業スクールを開講しており、受講者の傾向から数年前までは飲食店を希望する方が多かったが、最近は幅広いジャンルで、ECサイトやインターネットの活用など、実店舗を持たないビジネスを望まれる方が多くなった。もともと川越は商人の街なので、小売やサービス関連の創業をしたいという方もいる。

(委 員) 創業については、7月1日に川越市、川越商工会議所、りそなコエドテラス、ウェスタ川越創業支援ルーム、日本政策金融公庫川越支店の5者で創業に関する連携協定を結んだ。りそなコエドテラスと川越市文化創造インキュベーション施設「コエトコ」は、いずれも創業の拠点となっている。創業支援ルームは、ウェスタ川越が開館した当初から設置されており、そのノウハウが教授されることも大きい。これだけ創業しやすい環境が整っているのは、他の市町村ではあまり例を見ない。

これまでも川越で創業したい方は多かったが、コロナ禍を経てさらに増えている印象。若い人が多い。川越以外の方が、川越に魅力を感じ、川越で創業したいと思っている。その方々を支援したい。川越は創業しやすい街ということをPRしたい。

(委 員) 川越市の市内総生産額は、目標を達成しているとの報告があった。川越市内の産業は活性化しているようだが、商店街は厳しい状況にある。中小企業は担い手の不足などで厳しい状況かもしれないが、中心市街地以外にある小さな商店街は、維持することがだんだん難しくなっている。数値目標を達成することだけが良いとは思わない。ただ数字を見るだけでなく、質に目を向けてもらいたい。

肌感覚だが、商店街にお客さんの数は戻ってきている一方で、客単価は減ってきている。物価が高いことから、足りないもの、すぐに必要なものだけ買うなど、買い控えが起きている。また、インターネットで買う方も増えている。産業の構造の中で、商店街の在りようというものを考える必要がある。

(会 長) 補足すると、本川越駅と川越市駅の間は、以前は遠回りしなければ通行できなかった。近年は遠回りせずに通行できるようになり、以前は何もなかったところに、飲食店等ができた。商店街にとって、人の流れというのは重要である。

客単価が下がるというのも、課題である。

(委 員) J Aいるま野では、売りたいものをピックアップして認知度を上げようとしており、サトイモに力を入れている。需要がやっと上向きになってきたが、サトイモとやつがしらの違いを聞いても知らない方が多い。サトイモに限らず、ネット販売で売り上げをあげている方もいる。アピールを繰り返し、まずは知ってもらいたい。

(委 員) クレアモール周辺では、観光客がマンションの植木にゴミを置いて行ってしまうなどの問題が生じており、対応に苦慮している。

一番街周辺に行けば人はいるが、蓮馨寺あたりは素通りが多い。

賃貸物件では、ネット通販の事業者が多くなっている。コロナ禍を経て環境もだいぶ変わり、実店舗でない方がいいのかなと感じている。

(委 員) 進捗のところで2点質問がある。

1点目は、産業振興ビジョンでは、4つの目標のもとに53事業を実施することとしており、事業の進捗状況をAからDまでの評価を付して今回の審議会に提示している。評価をBとした事業のうち、「解決すべき課題はあるが現状のまま推進」と「解決すべき課題があり、一部を見直して推進」の内訳を教えて欲しい。

2点目は「解決すべき課題はあるが現状のまま推進」とした事業は、課題があると分かっているにもかかわらず、現状のやり方を是認した理由を教えて欲しい。

(事務局) 1点目の内訳については、「解決すべき課題はあるが現状のまま推進」が24事業、「解決すべき課題があり、一部を見直して推進」が19事業となっている。

2点目の「解決すべき課題はあるが現状のまま推進」については、事業を実施するにあたって影響がある課題ではないため、現状はそのまま推進しているというものがある。また、費用に関する予算や補助金のあり方が課題となっており、事業そのものの進捗には関わらない部分を課題としているものもある。ご指摘の通り、評価の方法や各課からの回答方法を工夫していきたい。

(委 員) ぜひ、目標達成にむけて頑張ってください。

(会 長) 重要な指摘であると考え。解決すべき課題の部分については、AとBの2択だと回答に幅がなく、意見の言いようがなくなってしまう。それが環境の変化に則ったうえでどうなのか。事務局の方でも検討をお願いしたい。

(委 員) 基本目標2「商店街の魅力の向上とにぎわい創出」のそれぞれの推進事業の総合評価については、他の市町村と比較すると川越市はよくやっており、評価が厳しいのではないかと感じる。

埼玉県と一緒に人手不足に関するプロジェクトチームを組んでいる。解決策の一つとして、シニア世代をどうにかして活用できればという方向での話が進んでいる。

(会 長) 重要な視点である。事業承継の問題も絡んでくる。

(委 員) 先ほどの意見にもあったが、数値目標と個々の商店街の価値観は重要な視点である。商店街もイベントを開催しているが、年に1回や半年に1回では、その時は人が来てもしずれはマンネリ化してしまう。イベントよりも普段から何をやるか。

暑さの話も重要で、熱中症警戒アラートで外出を控える方が増えている。昼ではなく夜にシフトしてはどうかと考えている。秩父の商店街では、30年近くナイトバザールをしている。夜の取組を参考にしてもよいのかなと思っている。

コエトコとどのような連携が可能なのか。例えば、自分のお店を活性化したいという課題があった場合、どのように依頼すればよいのか。方法をご教授願いたい。

(事務局) コエトコはオープンしたばかりであり、産業振興課では手続き方法など把握していないが、具体的な相談内容が分かれば、コエトコにつなぐことはできる。

(委 員) 観光に関わる問題点としては、滞在時間が短いこと、消費金額が少ないことなどが挙げられる。SNSに投稿するための写真を撮るだけで、お店に入らない。

オーバーツーリズムへの対策や滞在時間の延長を図るため、夕焼けプロジェクトを立ち上げている。郊外に夕方まで滞在して夕焼けの写真を撮ってもらう。中心市街地以外にある飲食店で、飲食して帰るという文化を作りたい。イベントではないので、いろいろな組織の動きとタイアップすることにより、息の長い動きにしたい。

本市には、まだまだ我々の気づいていないポテンシャルがある。川越市は外国人の在住者、特にベトナム人が最近増えている。その人たちに意識調査して川越のどこがよいのか発信してもらいたい。マーケティングという意味でも、今住んでいる外国人に少し光を当ててみるのもよいかと思う。

(会 長) 夕焼けプロジェクトは良い流れである。観光客がホテルに泊まって夜の街に出ていくような流れができればよい。

(委 員) 川越しごと支援センターでの紹介件数は減少したが、就職件数は増加しているとある。どの職種で就職件数が増加しているのか聞きたい。

地元の商店街は、いつ潰れるかわからない。高齢で跡を継ぐ人はおらず、後を継ぐような商売もしていない。市からの助成があっても活用できない、他の商店街等のイベントに参加しようとしても参加できないなど、さまざまな問題で苦労している。

(事務局) ※回答ができなかったため、後日担当課に確認した内容を記載

就職件数も減少しており、資料「数値目標の進捗状況」の記述内容は修正する。川越しごと支援センターでの紹介件数は売り手市場（求職者が就職しやすい状況）が続いており減少、就職件数は求職者の減少に伴い減少しているが、紹介件数に対する就職件数の割合は増加している。

また、就職件数が減少傾向にある中で増加している職種としては、サービス業、運搬・清掃・包装等、事務などとなっている。

(会 長) どれも人が足りない。例えば、ファミリーレストランなどの注文はタブレットになっている。人が足りないから人を雇うというだけでなく、人に代わるものやサービスに置き換えるという考え方もある。

(委 員) 商店街として、キャッシュレス決済に積極的に取り組んだことがある。キャッシュレス決済は、小銭がジャラジャラ落ちず、高齢者にも安心である。自治会との連携も模索していたが、コロナにより頓挫してしまった。今後、高齢化が進んでいく中で、キャッシュレス決済を身近に感じていただくことが大事である。

(委 員) クレジットカードや PayPay 等での支払いが多くなっており、キャッシュレス決済は楽だと思うが、現金も選択肢として残しておくべき。東日本大震災の際、仙台では電気が完全に止まってしまい、キャッシュレスのみを使用していた方は買い物ができなかった。周辺の市町村ではキャッシュレスが使えるようになって、川越は現金が使える古い町という売り方もいいのではないか。

(副会長) 卸売団地は、伊佐沼のそばで協同組合を組織している。設立から50数年が経過しており、環境変化に対応していかなければいけない。流通構造の変化の影響が大きく、高速道路のインターチェンジ付近に巨大な物流センターが次々とできている。卸売団地内では賄いきれず、外に巨大倉庫を借りている状況もある。巨大な物流センターの中では、AI を活用してピッキング作業が行われ、人出不足に対応している。

基本目標3「企業誘致の推進等による産業競争力の強化」に関して、昨日、川越市企業立地推進基礎調査についての報告を受けたが、なかなか用地が確保できないとのことである。立地の用地のニーズがあっても見つからないという現状を、どう打破していくかが課題になっていくと感じている。

(会 長) 本日は進捗の報告であったが、次期計画を意識しての意見も多くいただいた。この場で言えなかったことなどあれば、事務局に直接言っていただければと思う。

○その他

(事務局) ご指摘のあった部分については、修正等を行い改めてご報告する。

その他として、2点について説明したい。

1点目は、今後のスケジュールについてである。今年度の産業振興審議会は今回1回のみとなる。今後は、本日の会議要旨をまとめたうえで、「数値目標の進捗状況【公表用】」と併せてホームページで公表する予定である。創業については、りそなコエドテラスやコエトコがオープンしたことから、数値目標等について変更する可能性がある。見直しが必要となった場合は、改めて説明等を行う予定である。

2点目は、次期川越市産業振興ビジョンについてである。現在の計画は、令和7年度までの計画となっており、新たに令和8年度を始期とする計画を策定したい。計画期間については、これまでと同様に、総合計画の計画期間に合わせて5年としたい。今年度中に骨子案を作成したいと考えており、次期計画に関わるキーワードやトレンドのようなものを意見照会したいと考えている。

来年度については、次期計画の策定もあるので、審議会は少なくとも3回を開催したい。日程については改めて調整させていただく。協力をお願いしたい。